

亡国の使者

すべてのものは、人間の繁栄、平和、幸福に役立つところにその使命がある。この使命に背く殺し方や無意味な生かし方は殺生という事です。悔い改めない、使命に背く士は、封建時代は死罪となつたのです。さらに、罪と罰は表裏一体同列です。

根なし草に花は咲かない。信念がなければ、人生に花は咲かないということ。邪道の信念には、自然と悪が集うものです。

日刊「朝日」に見た大罪はマスコミの奢りです。権力のシロアリと変わらない。なぜ金銭を払ってまでシロアリを飼育するのか。地方紙の死亡欄で会社名等掲載にカネを請求する新聞社があると聞く。上から場末紙まで腐りきった象徴です。

最近良く公共放送を標榜するのを聞く時、私の違和感がどうしても消えない。デジタル放送で懐が豊かになったのです。公共放送はトップの判断ひとつ、大いなる疑問は消えていない。

裸の王様解散

野田総理の尖閣諸島問題は素人以下、実にまづい国益を大きく毀損しました。今年、中国は10年ぶりに

政治指導者が交代する大事な分岐点。中国は政治的に非常に不安定な状態に陥って、外交には細

心の注意を要する時期であった。野田総理は政治的な中国の空白を衝いたと受け止められたタイミングで国有化を宣言、しかも81年前に満州事変の発端となった柳条湖事件(りゅうじょうこ)・昭和6年9月18日、関東軍の謀略によって起した満州事変発端の鉄道爆破事件)直前の9月11日に国有化を決めれば、中国指導部の虎

の尾を踏むことは火を見るよりも明らかだったはずで、日中が戦争状態に至っても何らおかしくない。ただ日本に戦う意志も能力も無いだけです。

北陸の貧しい1%経済圏はモロに直撃です。一挙に鉄工関連の生産が止まりました。動かないのです。すべては稚拙な政党の元、消費税命の米財務省の傀儡?野田総理が執行人でした。そして師走の総選挙です。ウソ議員を選出した県民は騙された責任を恥じ、来月16日子孫のため恨みを素直に投ずべきではない?

読書とは

紙の上に書かれた思想は、決して砂の上の足あと以上のものではない。作家の作品を読むことによってその作家の特性まで身につけられる訳ではない。

けれど私たちが同様の特性を既に可能性として所持している場合は、読書をする事によって内部から特性を呼び起こし意識へと上らせることができます。大いなる思索のインプットのために、アウトプットが必要となるのです。

最近読んだ本で感動したシンホニーの一冊です。何回も涙でページをめぐる事ができました。

佐村河内 守(さむらごうち まもる)著、被爆二世で

三十五歳で全聾啞(ろうろうあ)になった作曲家です。感動の余りCDを注文しました。日本が生んだ21世紀の生きるベートーベンとも呼ばれています。すさまじい葛藤、二回の自殺

「交響曲第二番」

未遂、母の虐待で障害が残った「お」ちゃんとの出会い、どこか見えざる存在を信じる。また天才を支える妻の存在に、強い関心があります。

みがたどり着ける領域、闇の中の小さな光の希望。「人は闇に落ちて初めて小さな光に気づくでしょう」「欠けたところがない者こそ欠陥人間である」

私は本から風や音、景色と空気が、気温や匂いまでも感じる希少な一冊です。すさまじい逆境を超える者の

最終の行。真実は闇の中にこそ隠されている。宝物は決して光の中でなく、闇の中にこそ巧みに隠されているように。



(有)西川経営オフィスサービス
中村会計 事務所便り
2012年11月19日 (月) NO. 278
地域から明るい未来を作ろう